

《一橋大学オープンキャンパス 2003》

## 一橋大学経済学部の概要(参考資料)

2003年8月1日

一橋大学経済学研究科助教授

学部教育委員

石倉雅男

### 1. 一橋大学経済学部で勉強できること

\*経済学部の対象領域:経済理論・経済統計, 応用経済学, 地域経済・経済史(図1)

\*各分野の主な内容

#### 理論・統計グループ

- 1) 経済理論部門:ミクロ経済学, マクロ経済学, 政治経済学, 経済数学
- 2) 社会経済システム部門:経済計画論, 経済システム論, 経済思想, 経済学史
- 3) 経済統計部門:統計学, 計量経済学, 数理ファイナンス, 情報処理論
- 4) 情報数理部門:数学(解析学, 代数学, 幾何学等)

#### 応用経済グループ

- 5) 経済政策部門:国際経済学, 開発経済学, 労働経済学, 産業経済学
- 6) 公共経済部門:財政学, 公共政策論, 地方財政論
- 7) 環境・技術部門:環境経済学, 技術経済学, 資源経済学
- 8) 現代経済部門:現代経済, 経済地理学, 金融ファイナンス論, ゲーム論, 医療経済学

#### 経済史・地域経済グループ

- 9) 地域経済部門:日本経済論, アジア経済論(東アジア・南アジア・西アジア)
- 10) 経済史部門:日本経済史, 東洋経済史, 西洋経済史
- 11) 経済文化情報部門:経済英語, 経済文化(英米独仏中露)

### 2. 一橋大学経済学部での学び方

#### 1) 大学での勉強のしかたとは?

どんな学問分野にも言えることだが, 講義やゼミナールに積極的に参加して, 経済学の基礎的な考え方からその応用分野に至るまでの体系的知識に身につけることはもちろん, 自分で課題を発見して, 自分の考えを書いて発表し, 解決の糸口を見つける努力が要求される。大学での勉強は, 自主性重視・自己責任原則が基本であり, たくさんの科目の履修計画も一定のカリキュラムに従って自分で立てる。

#### 2) 一橋大学経済学部のカリキュラムの特色

履修規程の詳細には立ち入らないが, 経済学部のカリキュラムの特色を紹介する。

学部教育から大学院修士課程1博士課程に至るまでの積み上げ方式のカリキュラム[cf.「5年一貫プログラム」]

たとえば, 「経済学入門」の科目番号は EU-A101 である。[E:経済学部(経済学研究科の授業科目), U:学部授業科目, A:コア科目(必修科目), 100番台:入門科目]

### **100 番台コア科目**

経済学入門(EU-A101), 統計学入門(EU-A103), 経済史入門(EU-A105),  
経済思想入門(EU-A103)

### **200 番台コア科目**

基礎ミクロ経済学(EU-A201), 基礎マクロ経済学(EU-A202), 基礎計量経済学(EU-A204),  
基礎経済数学(EU-A205)

### **400 番台コア科目**[\* 大学院修士課程・学部上級者向け]

上級ミクロ経済学(EU/EG-A401), 上級マクロ経済学(EU/EG-A402),  
上級計量経済学(EU/EG-A404), 上級経済原論 1(EU/EG-B403), 比較経済史(EU/EG-A406)

### **100 番台・200 番台科目**[コア科目以外]

現代経済 (EU-C281), 市場と社会(EU-C291)など

### **300 番台科目**[コア科目以外]

たとえば, 「経済理論部門」では,

ミクロ経済学(EU-B311), マクロ経済学(EU-B312)など,

100 番台科目(入門)と 200 番台科目(基礎)から, 300 番台科目(応用・発展 学部専門)  
を経て, 400 番台科目(大学院修士課程・学部上級), 500 番台科目(大学院上級)に至る  
一貫カリキュラムを採用することによって, 学部から大学院修士課程・博士課程まで  
の「切れ目のない教育と研究」が可能になる。

\*(参考)在学生と卒業生によるカリキュラムの評価(図 2)

### **3) ゼミナール制度の充実:一橋大学の伝統, 少人数教育の徹底**

3 年次と 4 年次には全員がいずれかの教官のゼミナール(必修)に所属する;

小グループ(数名から 10 数名程度)での専門文献の輪読・報告と討論, 論文の作成,  
ゼミ生・教官どうしの交流。

3 年次には主に専門分野の基礎を学習し, 4 年次に卒業論文を作成する。

\*(参考)卒業生によるゼミナールの評価(図 3)

## **3. 一橋大経済学部でんだ成果**

1) 卒業後の進路:就職状況\*(参考)(図 4)

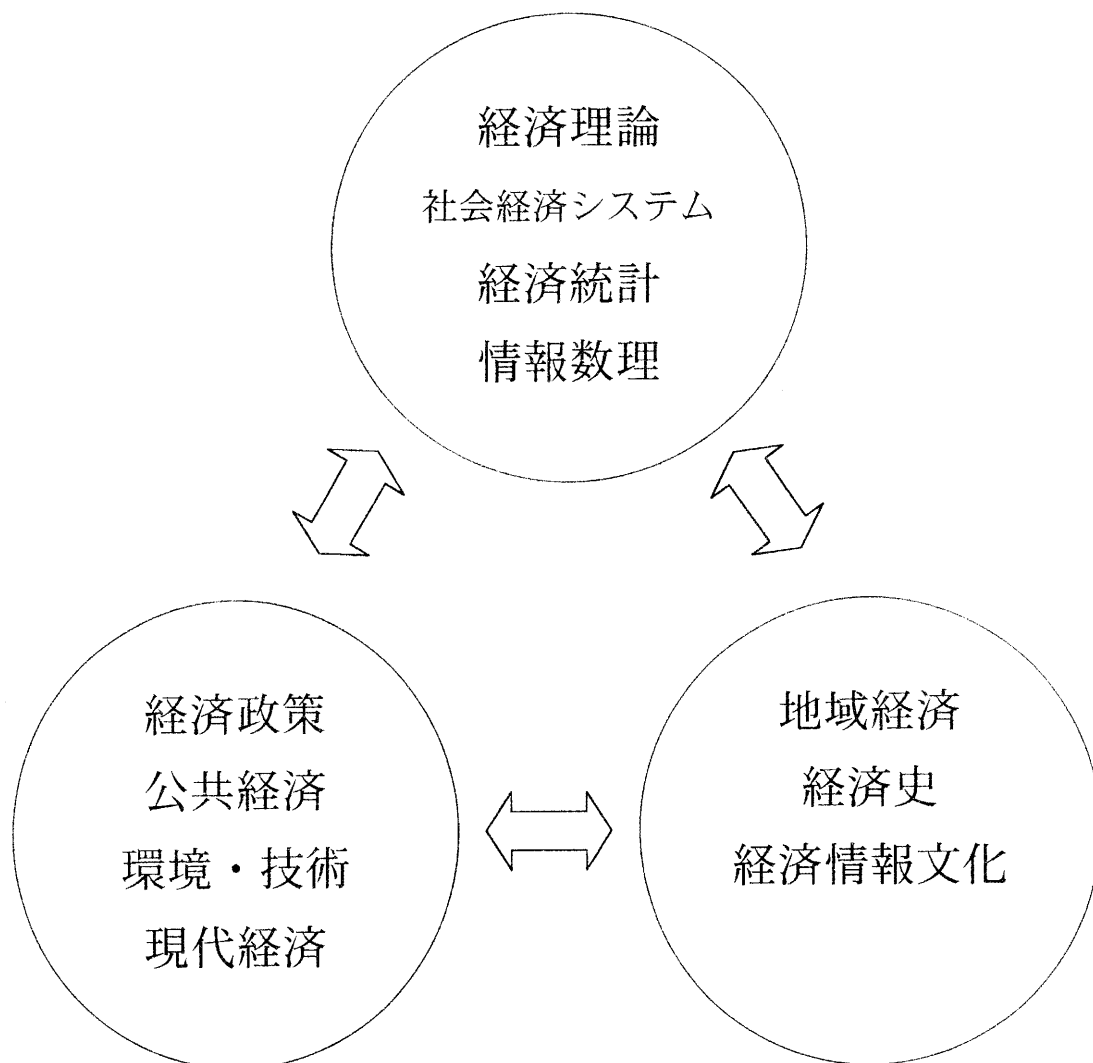
就職状況は全体的には良好;就職先は金融系が約 3 分の 1

2) 資格について

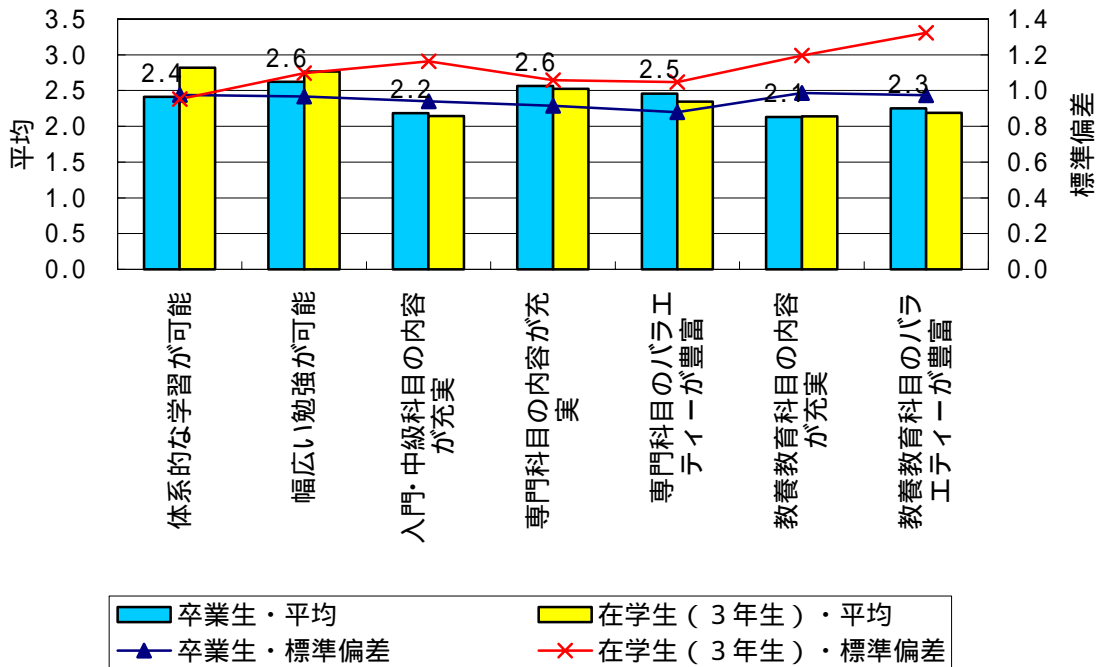
3) 資質・能力の向上に関する評価(卒業生自身・企業の人事担当者)

\*(参考)(図 5, 6):専門知識, 思考力, 教養の点で比較的高い評価を得ている。

図 1 : 経済学部の対象領域



## 図2：カリキュラム全体の評価



## 図3：ゼミナールに関する評価

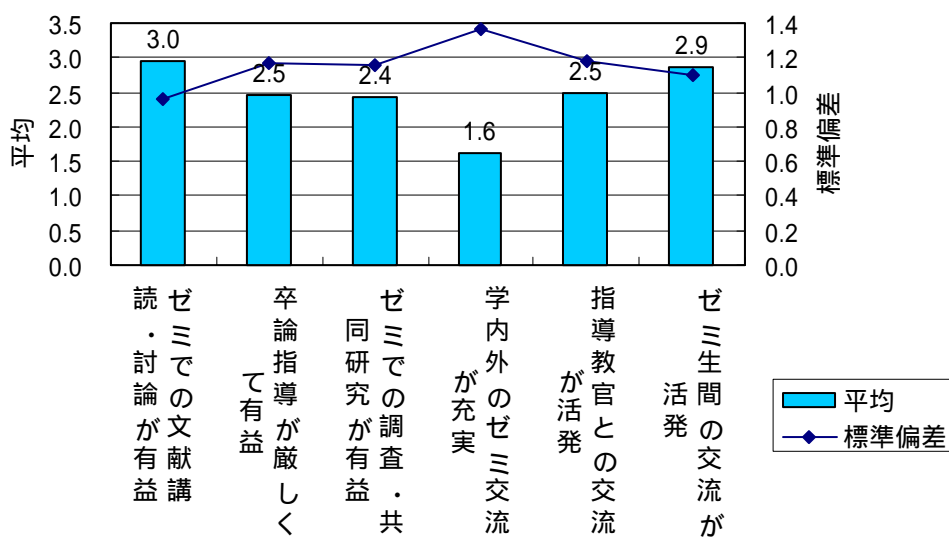


図4：経済学部卒業生の進路（平成13年度）

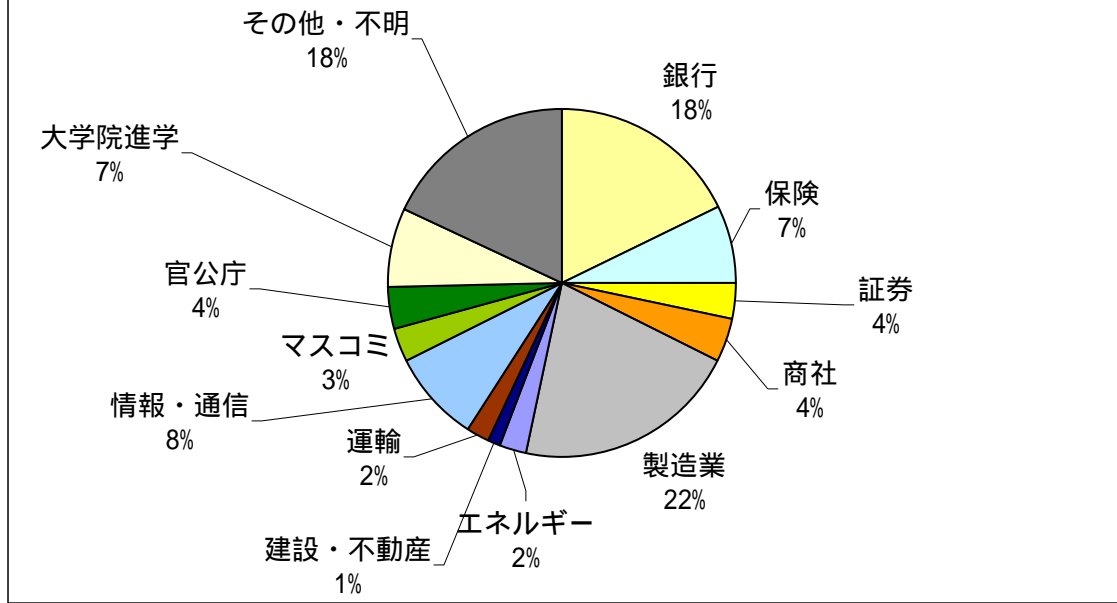


図5：能力・資質の向上に関する自己評価

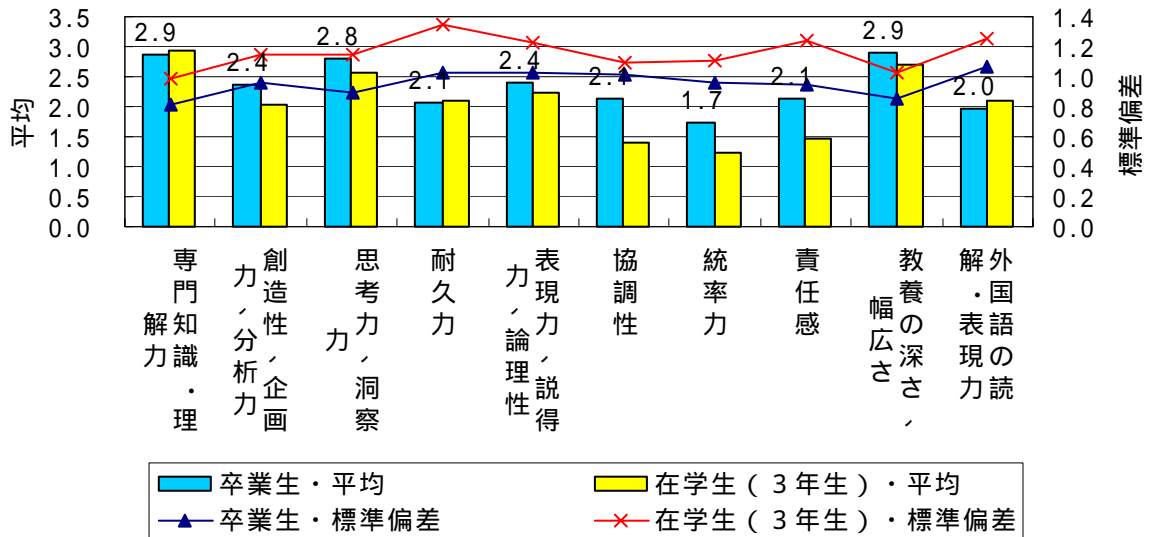


図6：卒業生の能力・資質の評価(企業)

